

# 平成30年度第2回あま市総合教育会議議事録要旨

平成31年2月12日（火）  
午後2時から午後4時まで  
あま市役所本庁舎3階特別会議室

## 1 出席者等

出席者等（委員）	8名
（事務局）	15名
（傍聴者）	1名

## 2 議題

- (1) 教員の多忙化解消について
- (2) 教育を取り巻く諸問題について

### 【教員の多忙化解消について】

#### 【主な意見・質疑等】

(意見要旨)

- 多忙化解消について、教員の意識をどう変えていくかが、これからの課題だと思う。
- 学校がやるべき業務とやらなくて良い業務を洗い出す必要があるのではないか。
- 「あま市教職員の多忙化解消に向けての方針」について、教育委員会の方でフォローアップしていく必要があると思う。
- 多忙化解消という点だけで見っていくと、先生方の仕事を減らしていくこととなるため、市民の方には教育のサービスの度合いが薄れると懸念されてしまうのではないか。
- 先生によっては、多忙と感じていない方もみえると思う。「なぜこんなことをしなければいけないのか」という思いから、多忙感が出てくると思う。そのため、先生自身に多忙感が生じないようなシステムづくりを行えばいいと思う。
- 多忙化の解消ということから教育の今までの既成概念を見直す必要があるのではないか。
- 時間を子どもに返してあげる、と解釈すると、自習の時間であったり、保護者と過ごす時間等が増えると思うので、多忙化解消に向けて、時間の使い方を含め今一度考えると良い機会になると思う。

- 部活に占める時間が多いため、部活は朝と夕方どちらかだけにするとか、時間を決めるだとか、短い時間で集中して練習に取り組んでいくという事が必要だと思う。
- 校長先生が先頭になり、勤務時間の削減に取り組み、先生方の共通理解を深めていくべきではないか。
- 部活の時間分をいかに他の授業だとか、学校の行事だとか、どういう風に時間を配分していけば良いのか、というようなことは思う。
- 専門的に知識がいる部活動では、先生方の負担が大きくなるのではないかと。子どもがやりたいと思う事をやれるように、部活動としてではなく、専門的な知識のある人材を探し、習いに行けるような場を提供できたらよいのではないかと。
- 先生方でしかできない仕事をしていただくため、PTAを始め、保護者や地域の方に、とにかく改善の必要性を求めていく取組やPRということに、やはり教育委員会も力を入れていくべきではないかなと思う。

(質問要旨)

- あま市だけの教員を作っていきたいが、愛知県より難しいだろうと言われた。

(回答要旨)

- 海部地区はそれをやっていないだけで可能である。尾張旭市はあま市より学校の規模が少ないが行っている。
- あま市の場合、横並びの意識が強い部分があり、都会的な課題や子どもの言動について、質が違うという事はよく聞く。

(意見要旨)

- 尾張旭市の事例を見る限り、率先してあま市が導入して良いかという判断しかねる、ということになる。
- しかしその中でも、重要ではないがやるべきことはやっていかなければならないのではないかと。市町村の現状を見据えて一歩二歩前に進めてもよいのでは。

(質問要旨)

- あま市の教職員の多忙化解消に向けての方針というのはまだ案なのか。

(回答要旨)

- 既に出してある。(資料1)

(質問要旨)

○これに乗っ取ってやらなければいけないのか。

(回答要旨)

○そうです。だからきちんとやりながら、足りない分についてはきちんと検証し、学校とキャッチボールしながら進めていく。ある意味数値目標と言いますか、45時間ということに対する変形労働制だとか、そういうようなことも視野に入れる。

(質問要旨)

○それもおかしな話では。時間外を認めているという事では。

(回答要旨)

○おかしな話ですよ。この検証をあま市の教育委員会としては、学校と連携してやりながら先生方の意識改革を進める、ということをやらなければいけないことだと思う。

○やはり先生方が、月45時間とまでは言わないが、精々60時間くらいで抑えられたら、全体の平均で45時間を抑えられたらよいのでは。

(質問要旨)

○この方針には、学校側と教育委員会側が主にこの解消に向けて検討し、推進する取組が明記されている。しかし、それに対しての保護者の対応があまり載っていない。

(回答要旨)

○文章でまず学校便りなどで、多忙化解消等の宣伝やPRをいろんな場面でしていく必要があると思う。宣伝等は教育委員会のホームページでは載っているため、学校のホームページにも周知や協力をしっかり行っていくことが大事。4月のところで、部活にしても多忙化解消にしても、親向けへの総会やPTAの総会で、全親御さんに周知ができるような方法は取っていかなければいけないかなと思う。

(意見要旨)

○教育委員会として逃げるわけではないが、子どもや保護者と直接対応しているのは先生なので、本当は学校や管理職の方に、ある程度多忙化解消について任せるべきではないか。それについての自分たちの考えを、学校から子どもや保護者に説明するべき。

○多忙化解消に向けての方針ということで進んでいくと思うが、これにより今まで行ってきた教育の質を低下させてはいけない。寧ろ向上させるようなシステムづくりをしていくことの方が大切だと思う。

(質問要旨)

○子どもだけの可能性を広げるようなあま市独自の取り組みなど、そのようなところに財力をかけていただきたい。

(回答要旨)

○今のところ、スポーツクラブ等を通じて、そこで子どもの育成をしていくことは可能だと思う。しかし、塾のような形態になってしまうと、なかなか投資はできないと思う。

(意見要旨)

○部活動の時間を削減することで1つ懸念するのは、今まで学校でスポーツ部活動ということで、学校でできていたことがある程度縮小されてしまうと、もっとやりたい子が出てくると思う。ある程度お金のある家庭だと、その分どこかのクラブに所属するという可能性も出てくる。しかし、金銭的に余裕がない家庭だと、学校でやらないとそれで終わってしまう形になり、伸ばせる才能が伸ばせないというケースが出てくる。そういった子達にサポートできるような組織や体制作りができれば良いと思います。

○スポーツに限っては、家庭ごとの考え方や力の入れ方があると思いますので、我々として、どこまで競技だとか、いろんなものに予算が出せるか、ということは研究をしながら体制作りを行わないと難しいと思う。

○スポーツクラブの方もいろいろと研究をしているようではあるが、指導をする方がなかなかみえず、幅広いスポーツクラブを行っているため、それに携わっていく子ども達もなかなかいないというものがあるため、この問題をいかに解決していくか考える必要がある。

○スポーツの大会の在り方についても、学校単位で全国に繋がっていく必要があるのか、声をあげて要望などを出して変えていく必要がある。

○スポーツで存在意義を見出している方もいるが、前提として、一人親などでそういう状況にないという子がいることは忘れて頂きたいと思う。

○家庭によっては貧困により、スポーツクラブに行きたくても行けない、というような状況の子もいる、と思っている。

○貧困という言葉は、家庭のどこが貧困なのか定義が分からない。金額的な面でも家庭によって違ってくるため、収入が低いから貧困なのか、というとまたそれは違うと思う。

○簡単な線引きとしては、授業料の免除というところが1つの線引きですね。

○心の貧困だとか、そういった面も出てきますので、本当に子どもがそう思っているのか、親がそう思っているのか、私自身の悩みかもしれませんが。

○親が面倒をみてくれない子が貧困ということですね。

- 最終的にはそこです。お金よりは心の方になるのかなと思います。
- 授業についても、今はいろんな機材を使うが、得意な人、不得意な人がいる。機材をまず使いこなせるようになれば多忙化解消になるのではないか。ICTに関しても、ソフトを入れているが、各学校の先生が上手く使えているかどうか分からない。学習のプリントにおいても、共有して誰でも使えるような形が整っているはずなんだけど、それがまだ機能していない。

(質問要旨)

- ICTについては導入することによって、なおさら多忙化になるという話にならないか。パソコンを見ている時間がないということです。学校にパソコンをいれたとき、パソコンを見ている暇はないとさんざん言われました。

(回答要旨)

- そこまでではないと思うけど。中学校は執務の時間は若干あるけれども、小学校は子どもがいる間はないですね。だから小学校に対して、雑域的なことをやれる人の2人、3人分補助を頂けるという話が県や国から通知されたが、中途半端であった。

(意見要旨)

- 今のスクールサポーターには授業支援だけではなく、校務をお手伝いいただけるような方が必要だと思う。
- スクールサポーターの導入に当たっては、その仕分けをしっかりとやっていく必要がある。また、コミュニティスクールに学習支援をどう担ってもらうか、ということも課題になってくるのは確か。

## 【教育に取り巻く諸問題】

### 【主な意見・質疑等】

(意見要旨)

- 町内会によっては3軒に1軒しか町内会へ入っていない場所がある。これにより、街路灯も点かない、ということが起きている。要するに人との繋がりがどんどん低下している状況で、これを放置しておけば3軒に1軒ではなくどんどん低下していく一方になってしまう。
- 北名古屋市の小学校へ行き、コミュニティスクールの様子を聞いた中で、「不登校の子供は、コミュニティスクールをすることによって改善されましたか。」というような質問があったと思うのですが、そこは1人か2人の不登校の子どもなものですから、特にそんなに問題ないと思う。しかし、あま市の中学校では、不登校の子どもがものすごく多く、コミュニティスクールができたことによって本当に解消されるのか、と思いました。やはり、地域の人との繋がりが薄らいでいくと、どこの誰が不登校なのか、どういう人が子どもがいるのか、ということすら分からない状況になる。そういう状況で、町内会を抜けていくということで、本当に危機感がある。繋がりが薄れることでいろんな問題が出てくると思っているため、コミュニティスクールを立ち上げるのは良い事だと思いますが、人との繋がりにしてもなんとかしていかなければならないのかな、と思います。
- 地区別でさまざまな大字の取り組みがあるのは事実です。ある地域では、市街化が主な地区であるため、新しい家が建つごとに町内会の方が必ず勧誘に行きます。そういった形作りをすることで、町内会へ入らざるを得ない、というような流れを持っています。一方で町内会離れについてですが、家を建てても勧誘へ行かない、これが現実でありまして、その違いがたぶんあるのではないかと思う。また、町内会役員をやりたくない方がおり、高齢者になってくると、やめてしまう、というサイクルに今なってきている。加入率の良いところは、次の役員を誰にするか、という感覚で回していますし、そういったリーダーがいるのは現実あります。

(質問要旨)

- あま市へ引っ越してきた人が、市役所へ来て、「町内会というのは入らないといけないのか」と聞いたところ、「どちらでも良いですよ」と言われた。

(回答要旨)

- どちらでも良いとは言わないと思います。

(質問要旨)

- 昔は組長さんが広報やごみ袋を配っていた。それで役場へ行かないとごみ

袋は買えなかったが、今では広報は配られてきて、ごみ袋はコンビニだろうがどこでも買えちゃうんですね。なので、町内会へ入る意味がどこにあるのかと。そういう悪い連鎖が今のように起こっていると思う。これをどうやって止めたらよいか。

(回答要旨)

- 町内会の役員さんが、ごみ袋を毎日のように配り、広報など重たいものを持ってやっていました。役員になってみると、毎日はやってられない等、そういった側面もありました。また、広報は税金で作っていますので、町内会に入っている方だけに配るといふのもいかがなものか、等いろいろな意見がある。役員をするとそのほとんどが町内会離れしてしまう、このような事実があります。
- 行政では、新しく引っ越してきた方には、必ず町内会の連絡先も教えます。そうすると、町内会へ入らなければいけないのか、ということになりますが、強制はできません。なので、どちらでも良いという答えは言わないと思います。我々は強制はできないので、入っていただくとうれしいですね、で終わると思うんですけども。恐らく入りたくない理由を我々にぶつけてきているのも現実、そこの中にはあると思います。
- 町内会離れはありますが、成功例もあります。本来は近所付き合いだと思っただけなんです。近所付き合いがいかにか町内会として機能しているのかです。最終的には災害だと思っただけなんですけれども、町内会へ入っていないから避難所に入れないのか、というところに入れてしまう。よってその部分というのは、葛藤はあるが、町内会というのは近所付き合いをきちんとする、というのが元にあると思う。その辺が気薄になってきているのも事実ある。
- 組全体が町内会から抜けてしまうケースもあり、高齢化や、町内会費を集めていくだけでも嫌になる、という部分もあるわけですから、いろんなところで悩みがあるのは事実。

(質問要旨)

- 七宝地区はコミュニティスクールを先行でやっていた。状況や問題の他、要望があれば教えてください。今年からは全地区でやらなくてはならないため、見習うべきところは見習うべきですし、改革すべきところは改革すべきなので。

(回答要旨)

- 七宝小学校ではコミュニティスクールを実践しており、活動の中心がコーラス、読み聞かせ、花壇です。それぞれ伝統のある活動なんですけれども、参加される方が少なくなっているのが現実です。地域の方に声をかけて入っていただいたら、と議題が上がることもあるんですけども、ただ

学校にボランティアとして参加している保護者の思いと、地域の方の参加していただく思いが一緒になるという事が難しく、どうしても方向性が違ってきてしまう。本当にいろんな方の理解が必要となり、他市の事例ですと、折角賛同してもらっても仲違いする例もありますので、現在試行錯誤の段階でやっている感じです。

問題点というのも今の段階では、本当にどこまでをやっていただいて、ということが難しいところである。学校の意見を参考にし、いい形で話し合いを重ねてやっていけたら良いな、ということに参加している保護者の方たちは言っている。すべて子どもの為と学校の為ということで気持ちは一緒だ、ということやらさせていただいている。

#### (意見要旨)

- 実際、コミュニティスクールの活動による問題点というのは出てくると思っていますので、協力しながらやっていきたいと思っています。
- 一緒に子ども達を育てていくのにどんなことができるのだろう、というような形で進めていくべきだと思う。
- 学校に目を向けていない人達をいかに学校の方へ向けさせるのか。目を向けてたり行動をしてもらったり、というような形になっていけば、多忙解消にもつながってくると思う。
- 17校が同じコミュニティスクールという土台の中で、学校名で活動をしていってくれるようになるため、連絡協議会みたいなものを作り、意見交換をして、さまざまなことに気づいてもらい、またその学校で今までなかったことをある程度参考にして、やってもらうというようなことがこれからはできるようになるのかな、と思います。
- 正則ですが、児童クラブでお迎えの時、見守り隊の人数が年々増加している。最初は少しかったが、声をかけていってどんどん広がって、そうやって学校に関心を持ってもらえるというだけですがすごく良い事だと思う。
- 正則の運動会ですが、猛暑のためテントを建てるということになったのですが、テントが足りない状態に陥ったことがありました。しかし、字の人たちが出して良い、とさまざまな所から声が上がり、字の人達がいきいきとテントを建ててみえました。このことから、地域の方たちに何かをやってもらって、自分達がいないと運動会が始まらないとか、何か意識を持っていただくように、こちらの方からどんどん声をかけていくと、地域の方たちも喜んでやってくださるのではないかな、と思います。
- 地域の力が学校のためになるということで、本当に活かされているので、そういう機会がもっと増えれば良いな、と思います。
- コミュニティスクールを推進していくのに、学校へ行くわけですから、や

はりトップに立って引っ張っていってくれる人にどういう人がいるか、だ  
と思います。よって、市でも教育委員会でも、うまく引っ張っていって  
くれる人に頼む必要があるのではないかな、と思います。

○平成31年4月から、七宝・美和・甚目寺にそれぞれ1名ずつ、アドバイ  
ザーを設ける。そういった仕切ってもらえる方を推薦してもらおうと良いの  
ではないか。

○自分の地域でも1人引っ張っていってくれる方がいるからやっていける。  
役員は、コミュニティの役員も、大字の役員も神社とかお寺とかみんな同  
じような人たちしかしていない。あまりに引っ張りだされることが多いと、  
忙しいから役員を下してもらえないか、という話になる。それなりの人に  
引っ張っていってもらわないといけない。

○学校をよく知っている人も、地域で活躍している人も必要であるので、  
我々としても同じような歩調で進んでいきたい。

### 3 その他

なし